

《宿題》

- テキスト「3-9 社会的地位の非一貫性……クラスター分析」(pp. 303-309)を読んで、
- 1) クラスター分析とは要するに何が出来る分析なのか、自分の言葉で考えてくること
 - 2) 意味がわからなかった用語や解説箇所印を付けてくること

表 テキストの内容一覧

	技法の目的	技法の名前	具体例のテーマ	難度
1-1	社会現象に数値をあたえる	プリ・コード、アフター・コード、内容分析	社会学とデータ	1
1-2	標本から全体を推測する	標本抽出と統計的推論	調査の成功と失敗	1
1-3	欠けたデータの補い方を探る	欠損データ分析	調査データの欠落に対処する	2
1-4	分布のかたちを数値であきらかにする	代表値と散布度	日本の核家族化	1
1-5	分布のかたちをグラフであきらかにする	ヒストグラム、箱ヒゲ図、散布図	犯罪と経済状態	1
1-6	分布の不平等を測る	ジニ係数、アトキンソン尺度	経済的不平等と犯罪	2
2-1	連続的な2つの変数の関連の強さを測る	相関係数	自殺と社会的統合	1
2-2	カテゴリーな2つの変数の関連を検討する	ユールのQ、四分点相関係数、独立性の検定	投票行動の予想と実際	1
2-3	連続的な変数の原因を説明する	一般線型モデル(GLM)、回帰分析、分散分析	家事分担と不公平感	2
2-4	カテゴリーに分けられた社会事象の原因を調べ予測する	プロビット分析、ロジット分析	社会階層と教育機会	2
2-5	異なる分析レベルの因果を同時に考える	階層線型モデル(HLM)	社会的な不平等と学校	3
2-6	質的データからメカニズムを探る	ブール代数分析	戦争責任の言説の解剖	3
2-7	3つの変数間の因果構造を調べる	ブレイラックの因果推論	宗教と自殺	2
2-8	3つ以上の変数の因果関係をモデル化し関係の強さを調べる	パス解析、構造方程式モデル	社会的地位はどのように形成されるか	3
2-9	社会的学的概念を測定し、その因果関係をあきらかにする	共分散構造分析	地位達成アスピレーションと社会階層	3
2-10	ある社会現象が生じるまでの時間の長さを予測する	イベントヒストリー分析	勤続と離職	3
2-11	時系列データから社会現象を予測し原因を調べる	ARIMAモデル	アノミーと犯罪	3
3-1	行為者間の関係を描く	ソシオグラム、隣接行列、所属行列	工場作業者の人間関係	2
3-2	行為者の位置関係を調べる	結合関係と構造同値	職場の人間関係と生産性	3
3-3	結びつきを指標化する	同質性(異質性)の距離と密度	パーソナルネットワークの結びつきと葛藤状況	3
3-4	関係を縮約する	ブロックモデル	世界システムの構造	3
3-5	社会的地位の結びつきの大きさを調べる	移動指標	社会移動と社会の開放性	2
3-6	社会的カテゴリー間の結びつきのパターンをあきらかにする	ログリニア・モデル	母娘の家族形成プランの類似性	2
3-7	複数の連続変数間の類似性を検討し要約する	因子分析	権威主義的攻撃とF尺度	2
3-8	複数のカテゴリー変数の類似性を検討する	双対尺度法と数量化Ⅲ類	趣味と文化的慣習行動	2
3-9	類似性にしたがって、分析対象をいくつかの集団に分ける	クラスター分析	社会的地位の非一貫性	2
3-10	複数の変数の位置関係を空間に描き出す	多次元尺度構成法(MDS)	職業評定の構造	2
3-11	複数の項目の信頼性を検討する	尺度構成と α 係数	性別役割意識	2
3-12	複数の変数を重みづけて新たな合成変数を作る	主成分分析	都市度	2
4-1	モデルを選択し診断する	決定係数とVIF	女性の階層帰属意識	2
4-2	モデルの当てはめの良さを測る	適合度指標	教育と不平等	2
4-3	より効率的なモデルを選ぶ	AIC	福祉国家の形成と産業化	2

注：太字は、社会学分野で比較的メジャーな多変量解析の技法

テキスト 与謝野有紀ほか編 2006 『社会の見方、測り方：計量社会学への招待』 勁草書房。